

兵庫県内経済情勢報告 (令和6年7月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

項目	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較
総括判断	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→

(注) 6年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項目	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	回復に向けたテンポが緩やかになっている	→
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	→
設備投資	5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	5年度通期は減益見込みとなっている	6年度通期は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、テンポが緩やかながらも持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

ショッピングセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

コンビニエンスストア販売額は、前期は前年を上回っていたものの、客単価の下落などの要因から、今期は前年を下回っている。

ドラッグストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

ホームセンター販売額は、前期は前年を下回っていたものの、気温の上昇に伴い関連商品の売れ行きが良くなってきていることなどの要因から、今期は前年を上回っている。

家電大型専門店販売額は、今期は前期から引き続き前年を下回っているものの、減少率は前期よりも下降している。

乗用車の新車登録届出台数は、今期は前期から引き続き前年を下回っているものの、減少率は前期よりも下降している。

宿泊施設では、堅調なインバウンド需要などの要因から、稼働率は前期よりも上昇している。これらのことから、個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 円安も追い風となり、インバウンド向けラグジュアリーブランドの売上が引き続き好調となっている。(百貨店)
- 値上げにより売上自体は前年超えとなったものの、買い控えにより販売点数が減少している。また、特売チラシ掲載商品の売上割合が上昇している。(スーパー)
- 5月は例年に比べ寒い日が多く、夏物衣料の滑り出しが遅れたが、堅調なインバウンド需要に支えられ売上は前年超えが続いている。(ショッピングセンター)
- 観光地など一部エリアでは来店客数が増加しており、売上は前年並みを維持。一方、全体としては値上げにより買上点数が減少しており、客単価は前年割れとなっている。(コンビニエンスストア)
- 気温の低い日が多く、制汗商品や防虫関係の商品の売れ行きがよくなかった。(ドラッグストア)
- 屋外イベントの再開に伴い関連商品が売れているほか、足下では暑さ対策として扇風機や日よけなども好調となっている。(ホームセンター)
- 猛暑によりエアコンの売れ行きが好調。(家電量販店)
- 半導体不足の解消により、生産の回復が見られた前年と比べると減少。また、一部自動車メーカーにおいて生産は再開されたものの、販売台数はまだピーク時には至っていない。(自動車販売店)
- インバウンドが堅調に推移しているほか、イベント効果もあって稼働率が上昇している。(宿泊)

■ 生産活動「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

鉱工業指数（生産）は、「化学」や「輸送機械」等が上昇しているものの、「汎用機械」や「金属製品」等が低下している。また、企業からは半導体の在庫調整が進んでいるといった声や、一部自動車メーカーの生産再開により回復しているといった声が聞かれる一方で、中国向けの受注が引き続き回復するに至っていないとの声も聞かれている。

これらのことから、生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

（主なヒアリング結果）

- 半導体の需要は堅調で各社における在庫調整も進んだことから、売上は回復基調にある。（化学）
- コロナ禍からの需要回復が一段と鮮明となっている。受注残も相応にあり、今後も堅調に推移する見込み。（輸送機械）
- 半導体向けは、国内での受注は回復してきているものの、海外において想定よりも回復が遅れてくる可能性がある。（生産用機械）
- 中国向けの受注が底を打った感はあるが、過去からの在庫はまだ残されている状況。（汎用機械）
- 中国向けの受注で減少が続いている。（鉄鋼）
- 高価格帯商品について、値上げによる買い控えから販売量が減少している。（食料品）
- 電動車向けは欧州での補助金終了や、中国経済の減速もあり減少傾向が続いていたが、前期末で底を打った感があり、前期からはほぼ横ばいで推移している。（電気機械）
- 供給制約の解消により、コロナ前の水準まで戻ってきている。また、短期的には一部自動車メーカーの生産再開により回復してきている。（汎用機械）

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和6年5月の有効求人倍率は、受理地別では0.99倍、就業地別では1.12倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和6年4~6月期調査では25.2%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

これらのことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 新規求人数の減少が続いているものの、足下では充足率が増加しており、また、賃上げによる待遇改善も見られることなどから、一概に雇用情勢が悪化した状況ではない。(公的機関)
- 相変わらず売り手市場であり、人材の確保が難しい状況が続いている。(化学)
- 今後、会社の継続を考えると、今のうちに若い人材を採用する必要性を感じてはいるが、実際にはできていない。(非鉄金属)
- 作業員の退職や高齢化により人手が不足しており、思うように受注が取れていない。(輸送用機械)
- 職人の数が少なく、限られた人数で作業を行っている。そのため、全ての受注を受けれるわけではなく優先順位を付けて行っていく必要がある。(建設)
- 営業員が不足している。賃上げを実施しても応募が少なく厳しい状況。大手の賃上げには遠く及ばない。(卸売)

■ 設備投資「6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和6年4~6月期調査）で見ると、6年度通期の設備投資は、製造業では「鉄鋼」、「化学」等が前年度を上回っており、非製造業では「不動産」、「運輸・郵便」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

■ 企業収益「6年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和6年4~6月期調査）で見ると、6年度通期の経常利益は、製造業では「食料品」等が減益見込みとなっており、非製造業では「運輸・郵便」等が減益見込みとなっていることから、全産業では「減益見込み」となっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和6年5月、後方3ヶ月移動平均）で見ると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和6年6月、年度累計）で見ると、前年を下回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和6年3～5月、3ヶ月平均）で見ると、輸出は、建設用・鉱山用機械、原動機等が減少していることから、前年を下回っている。なお、輸入も、前年を下回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和6年4～6月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和6年4～6月期調査）の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、全産業で見ると、令和6年7～9月期は「上昇」超に転じ、令和6年10～12月期は「上昇」超で推移する見通しとなっている。

【問い合わせ先】
神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942